

令和7年度第2回大田区認知症専門部会の実施内容について

令和7年度第2回大田区認知症専門部会の実施内容

令和7年度第2回大田区認知症専門部会 次第

【日時】令和7年12月4日（木）13時30分から15時まで 【会場】大田区役所本庁舎 9階 902会議室

< 次 第 >

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事

- (1) 令和7年度第1回大田区認知症専門部会の実施内容及び大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議委員からのご意見について
- (2) 大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について
- (3) 来年度以降の大田区認知症専門部会開催等のスケジュールについて

【参考】前回からの実施方法の見直し・改善について

(1) 会場レイアウトの変更

→ 前回は推進会議のレイアウトを踏襲し、対面する部会委員との間に空間を設けておりましたが、お互いの距離が遠く、どこか話しにくい雰囲気がありました。

そこで、今回はマイクを使用しなくてもお互いの声が届くくらいに部会委員同士の距離を近づけ、話しやすい雰囲気を作りました。

(2) 本日の検討内容を明示

→ 会議資料でどの話題に重点を置いて話し合うのかをあらかじめ明示し、部会委員それぞれが準備して話しやすくなるよう工夫しました。

【参考】第2回認知症専門部会 会場レイアウト



部会委員同士の距離を近づけて
話しやすい雰囲気づくりを意識

令和7年度第2回大田区認知症専門部会の実施内容

議事（1）令和7年度第1回大田区認知症専門部会の実施内容及び大田区高齢者祉計画・介護保険事業計画推進会議委員からのご意見について

- 令和7年度第1回大田区認知症専門部会の実施内容を振り返るとともに、推進会議でいただいた意見を共有。（下段資料）
- **推進会議委員からは、認知症専門部会に対する好意的な意見や今後の広報活動及び目標設定、また、基本理念に対する位置づけについて見直すことなど、多岐に渡る意見があったことを部会委員へ報告。なお、基本理念の位置づけについては事務局で検討を進めていくことを説明。**

※説明内容は、令和7年度第2回大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議の議事（3）「大田区認知症専門部会の実施報告について」で説明した内容と同様。

大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議での共有及びご意見

推進会議でいただいたご意見

【ご意見①】

- 認知症専門部会ですが、**若年性認知症の当事者が委員として参画している**と伺っております。ご意見をいくつか拝見しましたが、この方の言っていることだなと思うような点がございました。**認知症の当事者目線がしっかりと反映されており、大変良いと思われました。**
- **これまでは施策や基本理念等々を含めて、提供者側の視点で策定していく場面が多かった**と思いますが、今回は大分違うアプローチをしており、非常に良い取り組みだと感じました。めざす姿については、まだ検討中と認識しておりますので、引き続き議論を進めていただければと思います。
- 私たちの普段の活動においては、提供者側の視点が強く影響していることが多いため、予算執行の観点からも、**ぜひ認知症当事者の視点に耳を傾け、社会の捉え方を含めた意見を反映させていただきたい**と思います。このような形での実施についても、大変賛同いたしますので、よろしく願っています。

【ご意見②】

- 認知症施策推進計画について、まだ検討が始まったばかりであると思っておりますが、基本理念に関しては、皆様でお話し合いの上で決められた内容と理解しております。**今後、こういった内容を区民の方々にどのように浸透させていくか、広報活動が非常に重要になると**考えています。認知症の方が参画していることは大変良いことであり、今後その成果を区民の方々に広く認識させていくための取り組みをお願いしたいと思います。
- 第1回目の会議ということで、今後の目標設定についてはまだ決まっていなくても構いませんが、**どのような状態になれば認知症施策推進計画のめざす姿が達成されたかと判断するのか、目標をどのように定量化し、数値化するか**についての検討が必要です。どの辺まで我々として達成を目指すのか、今後の計画策定の中で皆様とお話し合いを是非進めていただければと思います。

11

大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議での共有及びご意見

推進会議でいただいたご意見

【ご意見③】

- 基本理念やめざす姿、各認知症施策の推進についての流れですが、これはいわゆるロジックモデルのような形で、施策を実施することで中期的な成果を実現し、最終的には大田区が目指すべき姿が実現するという道筋を描いていると思います。各プロセス自体はまさしくこの通りで非常に良いと思いますが、**基本理念の位置付けが個人的には疑問に感じました。**
- 一番上の基本理念の実現に向けて二段目のめざす姿が提示されていますが、**めざす姿は中間指標または中間目標に近いものであると考えております。**めざす姿の実現のために展開されている各認知症施策という構図自体は良いと思いますが、**基本理念が最終ゴールとされていることに対して違和感を抱きました。**基本理念という言葉が本来持つ道徳的な意味合いを考えると、もう少しベーシックな枠組みで位置付けられるべきではないかと感じています。



これまでは上の2つの図のとおり、各認知症施策やめざす姿が基本理念につながるような構図で資料を作成していましたが、**基本理念はその根本に据える目的や思想であり、めざす姿の最終ゴールというわけではない**ため、図の見せ方を改善するようご意見がございました。

12

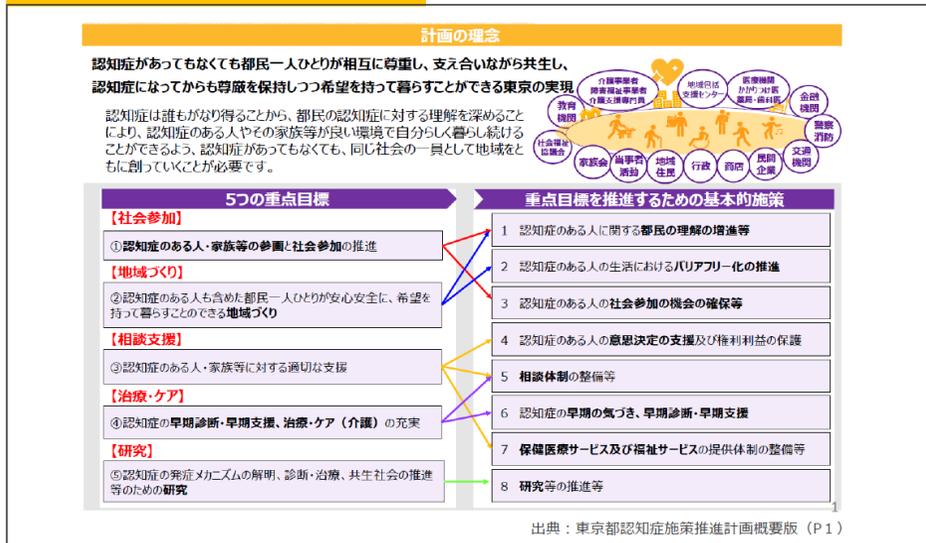
令和7年度第2回大田区認知症専門部会の実施内容

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について①

- 大田区認知症施策推進計画のめざす姿を検討していくにあたり、改めて東京都認知症施策推進計画を確認。**東京都は、5つの重点目標と、重点目標を推進するための8つの基本的施策を展開**していることを事務局から説明。（下段左）
- 大田区認知症施策推進計画のめざす姿について、議論した内容及び東京都の計画を踏まえ、『**地域づくり**』、『**社会参加**』、『**相談支援**』、『**治療・ケア・研究**』の視点から4つの構成に変更して提示。なお、東京都と異なる点として、『研究』分野が主に国で取り組んでいくものであり、区として取り組める内容が限定されるため、『治療・ケア』と『研究』を統合して検討していくことを説明。（下段右）

大田区認知症施策推進計画のめざす姿について（案）

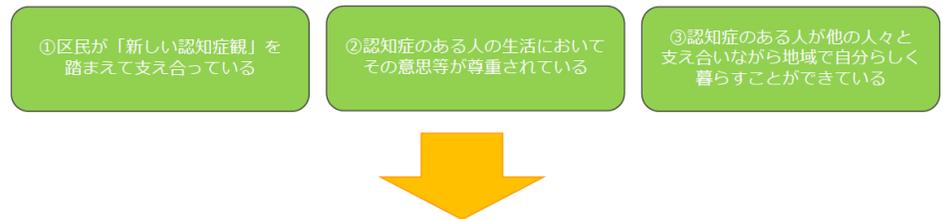
東京都認知症施策推進計画の考え方（振り返り）



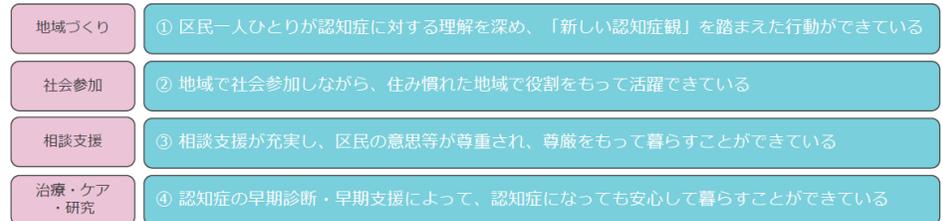
2

大田区認知症施策推進計画のめざす姿について（案）

< 認知症施策推進基本計画を参考に仮置きしためざす姿 >



< 議論した内容等を踏まえた大田区認知症施策推進計画のめざす姿（案） >



3

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について②

- 本日の検討内容として、『（1）実現したら良いと思う社会・環境』、『（2）「認知症の人」という表現について』の2つを提示。部会委員がこれまでに感じたことや経験してきたことなどについて議論し、多くの意見を聴取。

本日の検討内容

（1）実現したら良いと思う社会・環境

◎ 認知症の方にとってどんな社会が実現していたら良いと思いますか？

- ・ 前回のご意見にもあったように、例えば、就労等の社会参加することや、認知症に興味を持ち、正しい知識を得て、最終的には気にならないようなまちにすることも、実現したら良い社会の一つと考えられます。
- ・ 皆様がこれまでの生活で感じたことや経験したことなど、何でも構いません！皆様が考える認知症になっても安心して暮らせる理想のまちや、こんな社会になったら良いなと思うことを教えてください！

（2）「認知症の人」という表現について

◎ 認知症の当事者をどう表現したら良いと思いますか？

- ・ 東京都認知症施策推進計画の3ページでは、認知症の当事者に対する表現についてコラムが掲載されています。（詳細は次ページをご確認ください。）
- ・ 認知症の当事者に対して、国では「認知症の人」、東京都では「認知症のある人」という表現を用いています。
- ・ 大田区認知症施策推進計画では、認知症の当事者をなんと表現したらよいでしょうか。ぜひご意見をお聞かせください！

認知症専門部会資料
資料番号2：
令和7年度第2回大田区
認知症専門部会の検討事
項について（P5）

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について③

（1）実現したら良いと思う社会・環境

【 通いの場について 】

- 奥様が若年性認知症になられたご夫婦の話で、私の教室に来た時にご主人から奥様のボイストレーニングが継続しやすいよう、スポーツジムのような通いやすい、気軽に利用できる場があればよいと話されていました。
- 品川区にはミーティングセンター「めだかの会」があり、若年性認知症の方が中心に活動しています。そのカフェでは、カフェ事業だけではなく、無農薬の野菜を販売するほか、月に1回ランチを作って販売するなどの活動を行い、基本的に運営からすべてご家族と当事者という形で取り組んでいます。それが一つの可能性として非常に大きいと感じております。
- 先日、世田谷区に家族会を立ち上げましたが、スタッフは9名に対し、参加者は2名でした。しかし、ご家族やご本人の声で「社会や地域を変えていきたい」というご意見が出ており、それは最も大事な点と感じております。可能であれば、大田区でもご本人の言葉や気持ちを応援できる仕組みができれば良いと考えています。その方々の声は10名いれば10通りであり、その話を聞いて「じゃあやってみようか」と応援できる仕組みが作られていけば良いと思います。
- 介護保険のサービスは導入までがややこしく、煩雑であると感じることが多いです。今、出かけた、今話したいと望む方に対しても、いちいち下準備があって、準備が整う頃には気持ちが変わってしまうことがよくあります。そういう意味では、地域の力によって、本当に行きやすい場所、または行きたいと思える場が出来てくることは重要であると考えております。また、準備された場所にお呼ばれすると、やはり気も引けるし、いつまでもお客さんという印象を受けます。しかし、認知症のある人も含めて皆で運営から一緒に取り組むことが、活動として重要であり、そういった部分を施策で支援していくことが、今最も求められていることなのではないかと実感しております。

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について④

（1）実現したら良いと思う社会・環境

【 地域とのつながり 】

- 地域で、ご本人がなかなか息子さん、娘さんには心配をかけてしまうから言えないけれども、近所の民生委員や近所の方には相談できるケースもあると思います。現在、民生委員が地域で気になる方がいれば、包括へ連絡をいただいております。また、地域包括支援センターでは、各地で認知症カフェを開催し、認知症について関心のある方に来ていただけるような環境はあると思っています。用事がなくてもいつでも気軽に行って相談できる場や、気軽に相談できる人が地域の中の割と近い距離にいらっしゃると、困りごとの相談が早期にできて、支援が入りやすくなると思います。地域包括支援センターにおける色々な取組に関する周知活動とともに、地域で気軽に相談できる場ができて、見守りネットワークが拡大していくと良いと思います。
- 私が考える認知症の人にとって住みやすいまちは、認知症の有無にかかわらず困ったときに安心して助けてくださいと言えるまちです。支援が必要な場面では自然に手を差し伸べられ、そうでないときにはその本人の力を信じて尊重できるというバランスが取れた地域こそ、認知症の人が自分らしく暮らせるまちなのではないかと思います。そのためには、認知症サポーター養成講座のさらなる普及、拡大、拡充が大きな鍵になると考えています。商店、交通事業者、金融機関、地域住民、学校など、多様な主体がサポーターとして認知症を理解することで、まち全体がサポーターという環境が実現し、本人が安心して生活できる基盤が整うと考えております。私は、大田区が丸ごとチームオレンジになるといいなと思っています。自分が支える側から支えてもらう立場になったときに、「このまちは安心だから大丈夫」と思えるまちになったらいいなと考えております。

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について⑤

（1）実現したら良いと思う社会・環境

【 認知症への正しい知識と理解を深めるための取組 】

- 複数名の当事者の方と一緒に何ってグループワークを実施した際に、その方たちが各グループに入っていたのですが、参加者からは「何を聞いたらいいんだろうか」、「これを聞いちゃいけないのかな」といった雰囲気を感じる一方、当事者の方々からは「私たちは普通に話しているのに、どうして皆は構えているのか」といった声がありました。「全然聞いて良いですよ」と伝えてもなかなかそれが出てこないという時点で、認知症という病気そのものを何もできなくなってしまうと思っている一面があるのではないかとっておりました。認知症基本法の進め方からすると、正しいこの病気の理解をしてもらうことが前提ではないかと思います。まずその背景を伝えたくて、他人事として捉えるのではなく、自分がその立場になったときに、どんなところが不安になるのか、という部分から逆に出してもらわなければならないと考えています。
- 認知症サポーター養成講座で扱う内容やテキストが一部変更されて、病気の話を中心に内容が構成されていたものから、認知症の本人の声を聞いて考える、地域共生社会に向けた内容が増えていきます。その結果、受講者には自分に何が出来るかを考える機会を提供するような方向へ少しずつ変わってきているのではないかと感じています。

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について⑥

（1）実現したら良いと思う社会・環境

【小中学生に向けた認知症に関する普及啓発】

- 小学校や中学校のお子さんが、将来福祉的な視点を持った人材に育つことを願って、認知症サポーター養成講座を実施しています。中学校においては、認サポを開始する前に、先生方にプレ授業を30分程度実施してもらい、それを経て認サポに入っています。認知症の知識が全くない状態で、例えば「コンビニでお金を出すのに困っている人にはどう対応しますか」といった場面を設定し、受講者にどのように支援するべきかを考えてもらっております。高齢者と接する機会が少ない中で、認知症の方とどのようにコミュニケーションを取るのか、感性が若いうちにやっておくと、その子たちが将来的に大田区で働き、生活していく上での土台づくりになると考えております。将来的な福祉的視点や人材が増えるように、小学校や中学校という大人になる前段階において、このような経験を積ませることで、自然に高齢者と接することができるよう期待しながら実施しています。
- 大田区内の学校で講義をした後に、生徒からは今日話を聞いたら自分のお母さんが多分そうなのではないか、保護者の方からも自分の兄弟が多分そうじゃないか、という趣旨のご相談があり、最終的には校長先生を經由して、該当する方々全員が相談につながった事例がありました。講義をしてみて、やはりそういった方々がいらっしゃるのだなと気付かされました。子どもたちの立場で、学校の先生や友達に相談することはなかなか難しいと感じております。仮に家庭で両親のお手伝いをしていたとしても、それが「家族だから当たり前」と受け止められ、ケアラーとして認識すらしない部分があると思います。子どもたちが認識せずにケアラーになっている状況を踏まえると、子どもたちに対して発信をした方が良いと思いました。

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について⑦

（1）実現したら良いと思う社会・環境

【認知症症状のある人からの声】

- 当事者の方がおっしゃっていたのは、「まず想像してほしい」ということです。認知症という診断が出たことによって、何をするにも危険だからとか、何か必要以上に気を遣われることは結構しんどいです、とおっしゃっていました。認知症の方に成功体験を、という話もありますが、成功体験は失敗していなければできません。成功体験は、失敗するからこそ工夫が生まれ、工夫するからこそ成功して生まれるものであり、結果として自信がついていきます。そして、自分の力でそれを何度も繰り返すことによって、またやってみようという気持ちになっていく、ここを大事にしてほしいとおっしゃっていた方がいました。
- 先日の講義において、当事者の方が「信じてほしい」と言っていました。先週まで問題なく仕事をしていたにもかかわらず、認知症と診断されたら、周囲が過度に心配し、「大丈夫？大丈夫？」と相手を気遣って確認するように声を掛けてきたり、何かするたびに心配だからとついてきたりしたそうです。認知症と診断されたことで、急に誰も自分のことを信じてくれなくなるのは辛いという話をされておりました。
- 当事者の方が「認知症という言葉は既に出来上がっちゃっているんじゃないかな」とぼそっとおっしゃいました。その方は子どもからご年配の方まで『認知症』という言葉を聞くと、その言葉のイメージが既に出来上がっていて、実際に認知症とはどういう病気を正しく答えられる人はいないのではないかというイメージを持っていました。認知症サポーター養成講座などを含め、認知症という病気を正しく知ってもらうことが、認知症への理解を浸透させていく手段の一つになると感じました。

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について⑧

（1）実現したら良いと思う社会・環境

【認知症症状のある人からの声】

- 私は今、色々な人と会って喋ったりすることが出来ているのですが、やっぱりまだ出来ていない人もいますと感じています。そういう人たちを聞いてくれる場所、ここがあったらその人たちとも仲良くなれる場所があったら良いなと思います。
- 認知症になって、どうせ私は認知症だから、何か言われてもどうせできないし、と思うときもありましたが、支援者のおかげで、同じ状況の友達ができて、今でも仲良くしています。だから、そういう場やつながりを教えてくれた支援者には、心から感謝しています。もしそういう人に出会っていなければ、わからないことが多く、一人で悩んでいたかもしれません。どうせ私はできないとか、そういう病気だから仕方がない、と感じる部分が少しありましたが、今はそういうものが全く無くなりました。

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について⑨

（2）「認知症の人」という表現について

- 「認知症のある人」という表現よりも、「認知症状のある人」と表現したほうが良いのではないかと思います。症状という言葉を併記することで、色々な症状の可能性を包含できると思います。
- 「認知症の人」と言われると、その人が認知症の人として捉えられてしまいます。しかし、「認知症のある人」と言われると、その人の一部として捉えられ、さらに「認知症状のある人」という表現は、前述の「認知症のある人」の中の一部分になります。
「認知症状のある人」という表現が少し言いづらいのであれば、「認知症のある人」の方が良いと思いますが、その文章上で完結する場合には、「認知症状のある人」の方が良いと思いました。
- 東京都の研修自体では、「認知症のある人」で統一という話でもありません。都の施策では「認知症のある人」と表記していますが、そこにこだわらなくてもよいと言われており、テキストなどを作成しています。結局大事なのは「その言葉をどう使うか」、「どういう気持ちでその言葉を出すのか」という部分になってくるのだろうと考えています。「認知症状のある人」という表現は、認知症の凝り固まったイメージである「怖い」、「何も分からなくなる」といった印象を固定させない言い方で、とても柔軟に捉えられるため良いと思いました。ただし、研修の場面では「認知症の方」、「認知症の人」といった表記が多く出るため、すべてを「認知症状のある方」と説明することは現状難しく、理想と運用上の現状との間にある難しさを感じました。

議事（2）大田区認知症施策推進計画のめざす姿等の検討について⑨

（2）「認知症の人」という表現について

- その方の診断名にとてもこだわっておられる方がいらっしゃいます。例えば、前頭側頭型認知症であっても、それが行動型の認知症であるかなど、その診断名を前面に出して伝えたいと考えている場合もございます。そのため、前提的な表現としては、「認知症の人」が良いと思います。国の「認知症の人」や東京都の「認知症のある人」、その他にも「認知症の方」といった中立的な立場で表現されるのであれば良いと思います。
- 私はヨーロッパの「認知症とともに生きる人」が一番前向きな感じがしました。日本語の表現では良いと感じる一方で、英語の「people living with dementia」の表記は大変であると思いました。その場合、「認知症のある人」や「認知症状のある人」が良いと思いますが、私は「ともに生きる」という表現を簡単に言える言葉があって、その中に全ての意味が込められていれば、そういう境もなくなって一番良いと思いました。
- 「認知症状のある人」という表現について、正しくは「認知症症状のある人」だと思います。そのため、例えば「認知症症状のある人（以下、認知症のある人と訳します）」のような表現でも良いと思いました。

< 大田区認知症施策推進計画における認知症当事者に関する表現 >

大田区認知症施策推進計画における認知症当事者に対しては、

『認知症症状のある人』と表現する方向で調整

令和7年度第2回大田区認知症専門部会の実施内容

議事（3）来年度以降の大田区認知症専門部会開催等のスケジュールについて

- 部会委員に対して、来年度以降の認知症専門部会の開催及び認知症施策推進計画策定に向けたスケジュールを共有。
- 令和8年度は計画策定年度のため、認知症専門部会を4回実施予定であること、また、その開催時期は別途調整することを説明。

来年度以降の認知症専門部会の開催及び認知症施策推進計画策定に向けたスケジュール

スケジュール（予定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度				第1回 推進会議	第1回 認知症 専門部会		第2回 推進会議		第2回 認知症 専門部会		第3回 推進会議	
	認知症専門部会の設置に向けた調整							実態調査・調査期間				実態調査 の納品
	実態調査の設問検討					本人・家族等の声把握（認知症カフェやチームオレンジ等の訪問）						
令和8年度		第1回 認知症 専門部会	第1回 推進会議	第2回 認知症 専門部会	第2回 推進会議	第3回 認知症 専門部会	第3回 推進会議	第3回 推進会議	第4回 認知症 専門部会		第4回 推進会議	
	計画書（案）の作成								ハブコム・ 区民説明会の実施		計画書の 最終調整	計画書の 納品
	本人・家族等の声把握（認知症カフェやチームオレンジ等の訪問）											
令和9年度			第1回 認知症 専門部会					第2回 認知症 専門部会				
	関係部局へ計画書の送付			計画書の周知・普及啓発及び各施策の進捗状況の把握								
	本人・家族等の声把握（認知症カフェやチームオレンジ等の訪問）											

認知症専門部会資料 資料番号3：来年度以降のスケジュールについて（予定）